

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200337		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホームゆうゆう北沢 A棟		
所在地	〒028-3323 紫波町北沢字北沢2-1		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和6年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhvu
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員がグループホームの役割、意義を理解し考えながら日々の仕事に取り組めるよう働きかけている。また、利用者様の尊厳を守る事、利用者様が主体である事、生活の場である事を常に意識し普段の関わりやお手伝いをさせて頂いている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に公民館や神社があり、農家住宅が点在する閑静な田園地帯に位置している開所22年目の事業所である。以前の事業所理念を所長を中心に全職員で見直し、令和6年8月に新たな理念を制定した。新たな理念は、法人介護部の理念である「利用者さんの尊厳を大切に」をベースとして、「その人らしく」を第一に「笑顔溢れる日常が送れるように」「安心して暮らせるように」などを謳っている。食事、入浴、外出等の日常生活において利用者のペースを尊重し、画一化、強制を排除している。訪問診療、訪問看護、訪問歯科を利用した医療連携体制が整っており、利用者・家族は安心することができ、また、終末期には利用者ニーズに応じて開所以来多くの看取りを行っており、昨年はA棟B棟合わせて6人の利用者を看取っている。法人は3カ所のグループホームを経営し、「利用者が主体で、職員はお手伝い」という共通の理念のもと、職員派遣などで相互に協力し合い、利用者本位に徹する福祉サービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議の冒頭に参加者全員で理念の読み上げを行い理念の共有、確認を行っている。また、8月より職員全員で意見を出し合い作成した理念に変更となった。	年度当初にグループホームの役割について勉強会を実施し、今年8月には職員みんなで話し合っ て、「その人らしく」を柱とし利用者本位に徹した「寄り添い心を込めてお手伝い」する新しい理念を定めた。毎月の全体会議で理念とサービス支援方針を唱和して共有・確認を行い、日々のケアの実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば地域の草刈りや堰上げに参加していたが、シフトの都合やその他の事情で今年は参加出来なかった。地域のお店に利用者さんと一緒に買い物に行く機会は多々ある。	自治会に加入していないが、回覧板が届いたり、地域の人たちが草刈りのボランティアで訪れたり、利用者も一緒に活動したりと、地域との交流が行われている。また、利用者が外に出たときに地域の人が連れてきてくれたこともある。近隣の住民とは、避難訓練や非常災害時対応での協力関係が出来上がっている。町の移動図書館が来所し、利用している利用者もいる。	今年は諸事情で地域の行事に参加できませんでしたが、地域の行事計画をあらかじめ確認するなどし、地域の一員としての活動に積極的に取り組んでいくよう期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が町の「認知症なんでも相談会」に参加している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月に一度運営推進会議を行い事業所での取り組み状況等を報告している。実状、報告や現状の説明のみにとどまっている。	会議のメンバーには地域包括支援センター職員、介護相談員、民生委員、家族等が入っていて、隣接する公民館で開催している。会議では、利用者の状況やヒヤリハット・事故の報告を資料により詳細に行っているが、参加者からの意見・提言等は殆どないのが実情である。前回の外部評価後に目標達成計画を立て、会議の参加者を増員することとしていたが、なお取り組みの過程にある。	会議の記録を取っていないので、今後は記録を作成するとともに、事業所から課題やテーマを提出して意見交換をしたり、防災や防犯などに関して消防や警察からゲストを招くなど、会議の活性化を図る工夫を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は町の認知症なんでも相談会に参加している。また、運営推進会議には地域包括支援センターの方に出席していただいている。	運営推進会議に出席している町の担当者を介し、事業所について理解をいただいている。町が主催する「認知症なんでも相談会」に3ヵ月に1回参加し、町の担当者と協力し各種の相談に応じている。地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席し、介護情報を得るとともに、利用者・家族が抱える諸課題を相談し、適切な助言を得ている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、事業所内で身体拘束に当たる事案はないかを確認し、近しい事案があれば解決策、対応策を話し合い職員に周知している。また、職員に対し研修を行っている。	職員研修は年2回実施している。身体拘束廃止委員会は所長、リーダー、ケアマネージャー等で構成しており、虐待防止委員会と同時に年4回開催し、身体拘束や虐待、行動制限、不適切な対応に当たる事案の有無を確認している。必ずしもこれらに該当しないものであっても改善をした方がよい事案については、対応策を職員に周知している。言葉による行動抑制(マッテ！など)を無意識にしてしまう場合もあり、その都度所長やリーダーが即時に注意している。日中は玄関に鍵をかけておらず、利用者は自由に出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回、虐待防止委員会を開催し、事業所内で虐待や不適切な関わりが無いかを確認し、近しい事案があれば解決策、対応策を話し合い職員に周知している。また、職員に対し研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に行く機会を持たせられていない。現在、成年後見制度を使用している利用者様もいない為、優先して学習する機会を設けてはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書、契約書の内容を確認しながら説明を行っている。後日、不明に思う事もある為、その際はいつでも問い合わせいただくよう伝えている。改定等があった場合は電話連絡と書面にて同意も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	参加が可能なご家族様には運営推進会議に参加して頂き、お話を伺い意見を頂戴している。また、月に一度送付している「生活のご様子・健康のご様子」というお便りにご家族様の意見を記入し返信していただけるような欄を設けている。他にも電話連絡にてお話を伺っている。	家族の意見・要望は、運営推進会議で聞いたり、面会や通院同行のために来所した際や介護計画変更等に当たって電話連絡をする際に把握している。また、毎月家庭に届けている「生活のご様子・健康のご様子」という紙面の下部に家族の意見を記載する欄を設け、切手貼付の返信封筒を同封して自由に意見・要望を提出できるよう配慮している。コロナ禍による面会制限の緩和について家族から要望があり、玄関先での面会を10月からは居室での面会ができるように変更している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場、個人面談、普段の会話にて意見交換を行っている。内容に関しては管理者が精査しながら運営に反映させている。	所長は、職員間の信頼関係を重視し、普段から自由に話し合える雰囲気作りを心掛けている。職員の提案により「提起シート」を導入し、業務の中で疑問に思ったことなどをシートに記入し、それをもとに職員間で意見交換を行い、解決に繋げている。個人面談は所長が職員個々の個人目標をもとに年4回行っており、その際にも意見・提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働は適正に行われているが急な休みやシフト変更が多い為、残業や休日出勤が多くなってしまう傾向が見られる。適正人員は居るものの、職員としては人員不足のように感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の実際の状況を見ながら必要と思われる外部の研修への参加や、同法人内での交換研修、事業所内での勉強会等を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は町の高齢安心ネットワーク推進協議会に参加し、その中で他事業所の管理者と会う機会はあるが、それ以外で交流する機会はない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を行い、入所前までにある程度の情報の精査やご本人のご希望を伺い、それに沿ったケアプランを作成している。入居後はご本人と関わりながら新たな思いや実状を把握し、ケアプラン更新時に反映させ安心した生活やサービスの向上に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からは入居申し込み時、契約時までにかかけ直接お話を伺い、ご意向やご要望を伺っている。入居後も、面会時や電話にてお話を伺ったり、月に一度のお便りにてコミュニケーションを取っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様のお話を伺い、実状と照らし合わせながら必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の考えの基、ご自身で出来る事はご自身で行っていただき、出来ない部分のみお手伝いするようにしている。しかし職員もまだまだ先回って手を出してしまったり、不必要なお手伝いをしてしまう事も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一部利用者さんは、現在も通院や散髪は家族さんと一緒に行っている。また、コロナで制限はあるものの、家族さんと出かける機会や面会等で接することが出来るよう、出来るだけ繋がりを無くさないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等や普段の買い物、通院時に馴染みの場所(もしくは付近)まで行くことがある。	入居前の情報で馴染みの人や場を把握し、ドライブで馴染みの所へ行くなど関係継続の支援に努めている。家族が同行し、通院後に馴染みの店へ寄ったり、入居前に利用していた美容院へ行ったりする利用者も数名いる。コロナ禍もあり家族以外の面会者は極めて少ない状況にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士のコミュニティもあり、個々の様子を見ながら孤立されている方に対しては声を掛けさせて頂いたり輪に入れるようお誘いをしている。また、元々、他利用者さんとの関りを希望されない方も居るため、そういった方に対しては職員が主に関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了すると関係性が閉じてしまう事が殆どである。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の様子や会話等、関わりの中で思いの把握に努めている。また、思いを表現出来ない利用者さんもあるので、そういった方はこれまでの生活歴などから思いを汲み取るようにしている。	日常の会話や行動から利用者それぞれの思いや意向を把握している。言葉での表出が難しい利用者の場合は、表情や仕草をじっくり見ることを通して思いや意向を汲み取っている。把握した利用者の思いや意向は日々の記録に書きとめ、職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からご家族様のお話やご本人のお話をお伺いし把握に努めている。また、ご家族様以外の知り合いからお話を伺う機会もあるので、その際の情報も大切にしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わり方の中で過ごし方や様子変化の把握に努めている。また、職員は申し送りや日誌等で状況を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人思いや普段の生活の仕方を主軸とし、ご家族様の思いや、実際に関わっている職員の気持ちを反映させ計画作成担当者が作成している。	介護計画は、利用者の「私の願い(希望)」を柱に作成している。モニタリングは3ヵ月毎に全職員が介護計画の目標に沿って行い、計画作成担当者が計画の見直しを行っている。計画に変更がある場合は家族に丁寧に説明し、家族の意見も参考に成案にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見てもわかりやすい記録を目指しながら、普段の暮らしの様子や状態の変化を記入し情報を共有、確認している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の状態や状況を見極めながら、必要と考えられる支援を検討、見直し取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店に買い物に行くが、行事の参加等はほとんどなく、まだまだ地域資源を活用しきれていない。地域全体での見守り体制や理解が今後の課題。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居以前からのかかりつけ医にそのまま通って 頂いている。入所後の健康状態の変化に合わ せ、病院の変更や訪問診療への切り替えも行っ ている。	多くの利用者が入居前からのかかりつけ医を受 診しており、家族または職員が通院同行してい る。そのほかの利用者は訪問診療を利用し、月1 回の定期診察のほかに随時医師が来所してい る。また、毎週訪問看護師が来所し、利用者の健 康状態をみているほか、訪問歯科も利用してい る。医療連携は密であり、受診結果の情報は受 診記録表により家族に送って共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	週に一度、地元の訪問看護師に健康状態を見て いただいている。それ以外にも急な状態の変化 等見られれば電話相談や様子を見に来ていただ いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、又、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要な情報を病院に伝えている。ま た、電話での様子確認を行ったり、退院に向け 、ご家族様や病院と調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	管理者、計画作成担当者は、家族さんや医師、 訪問看護師と話し合いを行いながら看取りに向 け情報を共有している。	「医療連携体制・重度化・看取りに関する指針」を 定め、入居開始時に利用者・家族に説明し、安 心して納得した最期を迎えることができるよう支 援に努めている。終末期には利用者・家族の希 望を受け、訪問医師・訪問看護師と連携し住み 慣れた場でのケアを行い、A棟B棟全体で昨年6 名、今年1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	一昨年に心肺蘇生の訓練を行ったがそれ以降 は出来ていない。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っている。(今年は一度行った。地域の方も参加の予定だったが悪天候の為見送った。)また、自然災害のBCPを作成し災害時の行動の仕方の確認や内部研修、訓練を行った。災害時備蓄品も改めて準備した。	火災を想定した避難訓練を年2回実施し、消防署や近隣住民との連携を図っている。今年、自然災害時の事業継続計画(BCP)を作成し、利用者の安全確保と事業の継続に備えている。災害時の備蓄として、飲料水、食糧、ストーブ等を準備している。前回の外部評価後に目標達成計画を作成して一時避難場所の見直しを行い、建物裏手から玄関前に変更している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声の掛け方、関わり方等で配慮しているが、まだ配慮が足りなかったり、不適切な対応になってしまっていることがある。虐待防止委員会開催時に改めて確認し対応策を練っている。	法人介護部の理念に「利用者さんの尊厳を大切にしよう」を掲げ、利用者の誇りやプライバシーを確保した対応に努め、毎月の全体会議等で確認し合っている。言葉掛けでは親しさの中にも礼節を欠かさないう、また上から目線の言い方や大きな声にならないよう留意している。排泄、入浴などの場面でのプライバシー確保は当然のことで、居室へ入る際にもノックを必ず行って確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に直接お伺いしたり、決定が難しい方に対してもご本人で決めれるよう声の掛け方で工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	殆どの方がご本人のペースで生活できている。職員の都合や主導にならないように徹底しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご自身でその日着る服を選んでいただいている。日々の洗面時に整容を整えている。また、散髪は馴染みの美容院等に行ける方は行って頂き、それ以外は訪問理容を利用して頂いている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、メニュー決め、調理、片付けを職員、利用者さん一緒に行っている。調理に利用者さんが関わっていない場面もまだ見られ、今後の課題としている。	献立はあらかじめ決めずに「何が食べたい？」と声掛けし、利用者の声を献立に生かし、食材も利用者と職員と一緒にスーパーに出かけて買っている。約半数の利用者が調理に参加し、後片付けは全員が行っている。敬老会では仕出し弁当を取り、デザートやおやつを楽しんでいる。ラーメンが人気の外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別に医師の指導や制限がない限りは基本的に好きな物を召し上がって頂いている。その人の状態に合わせ食事の形態は変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きの声掛けをさせて頂いている。ご自分でできない方に関しては職員がお手伝いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易なオムツ使用はせず、出来るだけトイレで行って頂いている。ご自身でいられない方もいるので、声を掛けお誘いしている。	多くの利用者がパットを使用しているが、自立してトイレでの排泄ができている利用者は多く、また排泄チェック表により一人一人に応じた見守り、声掛け、誘導を適時に行い、トイレでの排泄が可能な利用者もいる。夜間、A棟B棟合わせて、離床センサーを2名、ポータブルトイレを1名が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中での動きの中で動く機会を持っていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所都合になってしまうが、日常なお風呂は時間帯が殆ど決まってしまうのが現状。要望があれば出来るだけ希望に沿った時間に入れるようにはしている。	入浴は、午前11時から午後3時までの時間帯に週2、3回となっている現状にあるが、希望があれば時間外でも自由に入浴できよう、柔軟に対応したいとしている。入浴中は職員一対一の場であり、会話が弾むことが多い。季節に応じて菖蒲湯、りんご湯、柚子湯で香を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの生活歴に合わせ、ベッドを使用したり、床に布団を敷いて休んでいただいている。日中でも眠気見られた際にはお声がけし、布団で休んでいただいている。また、室温、明るさにも配慮している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報に関しては職員間で共有、確認している。大きく変化等あれば、すぐに病院や看護師に相談している。服薬時は飲み終えるまで見守り行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ好きなことをしていただき、一人一人に合った支援を行っているが、利用者さん全体にまでは行き届いていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院時や日常的な買い物の際に外出する機会があるが、ドライブはなかなか行けていない。事業所付近を散歩する機会もある。	日常的に事業所の周辺を散歩したり、近くの店に職員と買い物に出かけたりしている。利用者の希望に沿って個人や小グループでドライブし、春には花見、秋には紅葉狩りに出かけたり、産直めぐりも楽しんでいる。家族と一緒に通院した後にドライブをして馴染みの店に寄る利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方も数人いらっしゃるが、使用するまでに至らないのが殆ど。(大体の方は安心の為に所持されている)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんから希望があればご家族様に電話を掛けれるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんそれぞれ寒暖の感じ方、光の感じ方、聞こえ方が違うので一概に心地よいとは言いが、不快に感じないような空間づくりをしている。また、その時々くつろぎやすかったり、安全性に配慮したレイアウトに変更している。	食堂兼ホールは明るく広々とし、厨房を挟んでA棟B棟が向かい合い、利用者は自由に往来している。床暖房・エアコン・空気清浄機能付加湿器により快適な温度・湿度が保たれている。利用者は外から花を摘んできてホールに飾ったり、落着ける好きな場で過ごしたり、利用者同士で会話を楽しんだりして過ごしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置で配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	ご自身に馴染みのある物をお持ち頂きお部屋で 使用して頂いている。自身で出来る方はレイアウ トも行っている。	各居室には、ベッド、クローゼット、エアコンが備 え付けられている。自宅に居たときのようにベッド を使用しないで床に布団を敷いている利用者も いる。コロナ禍が続く家族が居室へ入る機会が なかったため、自宅からの持ち込み物や壁面の 装飾物は少ない。10月から居室立ち入り制限が 解除されたため、持ち込み物が増えることが期 待される。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお部屋がわかりやすいよう入口に記名し ている。利用者さん全体の動きを考え、導線に配 慮しながら物の配置をするようにしている。		